

北海道初、アイスピグで洗淨

旭川市水道局 15分で効果を発揮



80人を超える見学者が

旭川市水道局は6月13日、市内の汚水圧送管を「アイスピグ管内洗淨工法」で洗淨した。北海道で初のアイスピグ洗淨として近隣自治体からも注目を集め、80人を超える下水道担当者や施工業者が見学し、高い関心が寄せられた。

今回の案件は、同局が(株)旭川浄化(旭川市、志野原正剛社長)に維持管理業務を委託、アイスピグ研究会の特定地域会員である(株)TMS工業(札幌市、渡邊仁社長)が洗淨作業を担当した。洗淨箇所は約100、延長186

のタクタイル鋼鉄管。洗淨に使用した特殊アイスシャーベット(SIS)は、含水率84%、運搬専用車「アリアリユニット」(2.2t×1台)で搬入した。水温、圧力、流量、電気伝導度、濁度を測定するFAS(水質監視機)でアイスピグの到達状況を確認し、水圧を調整した。SISを注入してから回収までの時間は、わずか15分だった。

洗淨効果を視認するために設けられた透明のアクリル管を通じて、SISが夾雑物を運ぶ様子を間近で見せた見学者は、短時間で発揮された洗淨力

に感心した様子だった。同局の担当者は、「過去に圧送管が閉塞したため、開削して管を切断し、高圧洗淨車などで油脂などの夾雑物を除去したが、圧送管全体を完全に洗淨できたとは言えないので、アイスピグの洗淨効果に期待している」と話した。旭川市内にはマンホールポンプが41カ所あり、アイスピグ研究会では「アイスピグの出番は、まだまだある」と見込んでいる。アイスピグ工法は、上水や下水のほか、最近では民間工場からの引き合いが増えており、2015年度の洗淨実績(管工事を除く)は、累計で50件、総延長では25キロを超えた。同研究会では、「2016年度は50件の受注を目標に、累計100件、総延長50キロ突破を目指したい」としている。